24-25 年度 335 複合地区アラート委員会 報告

335 複合地区アラート委員長 西尾良典

1. 全国アラートフォーラム（3 月 14 日、茨城・水戸）（定員 500 名満了）
MD335 登録者：34 名（A 地区 5 名、B 地区 20 名、C 地区 2 名、D 地区 7 名）

2. アラート活動規定について

● 最近、被災地への支援活動、受援態勢の連絡に乱れが生じ、情報が錯綜、しばしばトラブルと無駄が発生している、そこで複合地区内での情報共有と活動に一体性を持たすべく、日本ライオンズの運営規則を基に複合版、準地区版作成を目指す。土台を共有することで、「うちの規定は違う」と協力体制の足並みが乱れるのも防ぐ。発災場所に関わらず均一な連携を取るには、すべての複合、準地区が同じ規則に則る環境が必要。（ライオンズと社協との協定書に共通の雛形を使うのもこの理由による）

● 今期中に複合の活動規定を作製、それを基に準地区が地区活動規定を作製する。
（資金規定は準地区ごとに独自のものがあっても良い）

※ 補足事項：地区アラートチームは有志による任意の集まりだが、地区アラート委員会が主体となりチームを作り管理運営する。アラートチームが被災地支援に使う費用は基本的に参加者負担だが、地区の資金を使うならば、都度、地区内での承認が必要とされる。

3. 地区活動報告

A 地区：2 月 9 日（日）のレオ MD335 統一アクティビティ（レオとライオンで 50 名 参加）にて、藤之原委員長が講師となって研修を行った。当初計画していた炊き出し体験は会場都合により中止されたが、防災を含めた災害研修を丹念に実施した。3 月 9 日（日）、明石にて地区主催のフェスティバルを開催する。阪神淡路大震災 30 年周年であり、炊き出し体験などで災害支援についてアピールする。

B 地区：今期の地区目標は、①能登への継続支援、②各社協との協定締結 100%、③アラートチームの再構築（一旦解散して募集し直し、12 月時点で 460 名が登録。各クラブからリーダーを出し LINE で繋がってチームを構築する）、④南海トラフ地震・豪雨災害への備え（地区として備蓄倉庫の設置についてはキャビネット五役と相談）

C 地区：天理 LC が 60 周年事業で市民を対象に体験型防災セミナーを実施。参加者は体育館 で災害ビデオを視聴し、備蓄すべき物などのミッションをクリアしていった。シミュレーショ ンできる市民を増やし、被災時に生き残る確率 を上げるのが目的。今後も中学校などで開催したい。
（https://bosai-revo.com/event/20241201/）

D 地区：緊急災害対策本部規定を、連絡網登録者一覧や組織図含め、現状に合わせて改 訂中。また、アラートチームや活動規定の叩き台を、地区ガバナー、第 1・第 2 副地区 ガバナー、複合アラート委員会にて協議し、地区ガバナーの承認を経てキャビネット会議に提出する。